

第32回日本道路会議 開催報告

第32回日本道路会議が、平成29年10月31日(火)、11月1日(水)の両日、東京都千代田区の都市センターホテルで開催された。二日間の参加者は2,000人を超えた。

今回の道路会議は、今後の道路施策のあり方や直面する課題に対し、ソフトとハードのバランスがとれた施策が求められる中、AIやICT、ビッグデータを駆使したストックの活用や地方活性化へ向け、「今後の道路政策のあり方についての展望」、「直面する課題に関する先進事例・最新情報の共有と意見交換」、「先進的な取組・研究成果の発表や海外事情等の最新情報の提供」等の基調講演やパネルディスカッション、一部の論文発表について集中討議セッションを行った。二日間にわたり開催されたプログラムは盛況で、会場に参加者が入りきれないプログラムがあるほどであった。

以下、会議の概要を報告する。

1. 基調講演、パネルディスカッション等

31日午前10時、谷口博昭・日本道路協会会長の開会挨拶、実行委員長の石川雄一・国土交通省道路局長の会議開催経過報告に続き、羽藤英二・東京大学大学院教授の基調講演「ビッグデータを活用した道路施策のあり方」が行われた。引き続き、羽藤氏が司会を務めて、パネルディスカッション「ビッグデータをいかに活用するか」が開催された。

同日午後の基調講演・パネルディスカッション「道路協力団体をはじめとした地域活動団体の取組の活性化」では、道路協力団体制度を利用した地域活動団体の取り組みや、より魅力的な道路空間の創造について、有識者や行政、関係団体による議論が行われた。

続く、「巨大地震への備え～熊本地震から学ぶべきこと～」では、熊本地震の対応と新たな課題、今後の巨大地震への備えとして優先的な取り組みについて、有識者や行政・自治体関係者、民間企業者による議論が行われた。

「無電柱化推進法を受けた取組」では、今後、より一層無電柱化を推進するための現状の課題等にどのようにして取り組んでいくべきかについて、有識者や行政・自治体関係者、電力事業者による議論が行われた。

1日午前の基調講演・パネルディスカッション「道の駅等を拠点とした自動運転サービスの実証実験」では、高齢化や公共交通の衰退が進行する中山間地域を例に、今後、人流や物流の確保や地域活性化等について、有識者、行政関係者、物流関係者、車両メーカー関係者を交えて議論した。



続く「自転車活用推進法を受けた取組」では、自転車活用推進法を受け、安全を確保しつつ自転車活用推進のために現状の課題に対して、どのように取り組んでいくべきかを有識者、行政・自治体関係者、自転車利用者を交えて議論した。

並行する形で1日の午前は、パネルディスカッション「アセットマネジメントに関する国際シンポジウム」を開催し、欧米諸国で行われている事例紹介とともに、日本からはICT-舗装の取り組みを含む舗装マネジメントのあり方や長寿命化に向けた取り組みを紹介した。

午後は、「途上国における道路プロジェクトを通じて道路整備の原点を振り返る」と題し、ネパール・シンズリ道路建設事業の関係者から、国内とは異なる環境下での苦労や海外プロジェクトならではの魅力を紹介した。

2. 論文発表

論文発表は、31・1日の両日行われた。総発表数は、口頭発表445編、ポスターセッション発表57編であり、技術的課題の多様化を反映し、産・学・官それぞれの立場から、様々な視点に立った広範な内容の発表、活発な質疑応答、意見交換が実施された。

また、すべての部門で集中討議セッションが行われ、参加者を交えた議論や意見交換が活発に行われた。

3. その他のプログラム

展示・広告ブースでは、企業等10者による出展があり、出展者の技術展示や、参加者との情報交換等、活発な交流が繰り広げられた。

また、日本道路協会会長、藤田光一・論文・企画委員長同席の中で、優秀論文賞、奨励賞の表彰式を開催した。受賞者の栄誉を祝し、表彰状とともにほぼ満席の会場から大きな拍手が贈られた。

これらのプログラムを実施し、第32回日本道路会議は、二日間の日程を、盛会裡のうちに滞りなく終了した。